

とわってい 埼玉王

第20回総会・講演会開催

駐日タイ王国特命全権大使講演

去る7月10日(火)、埼玉・タイ王国友好協会の第20回総会・講演会が川越東武ホテルで開催され、会員等約90名の出席がありました。今回の総会では平成29年度事業報告および収支報告と、平成30年度事業計画(案)および収支予算(案)が上程され、いずれも全会一致で承認されました。

平成29年度事業報告では、日タイ修好130周年記念事業として取り組んだ『ランブーン県の学校への食堂新設』『電気のない村の通学路への太陽電池式街灯設置』、および『山岳民族職業訓練センターへの図書寄贈』の3つの事業に関して報告しました。

また、平成30年度事業計画では記念事業の継続として電気のない村への太陽電池式街灯設置および水道設備の設置等の支援、さらに高校生への奨学支援資金授与を行うことが承認されました。

総会後、バンサーン・ブンナーク駐日タイ王国特命全権大使に「タイにおける政治と経済の発展」という演目でご講演いただきました。(2面参照) タイの政治・経済が安定していること、タイの政策『タイランド4.0』の実現に向けての東部経済回廊(EEC)への投資等についてご講演いただき、出席された会員の皆さまは熱心に聞き入っていました。

今回の総会・講演会には、タイ大使館から、公務ご多用中のごとく大使閣下をはじめ陸軍大佐、参事官、職員1名、公務員研修生2名と多くの皆さまにご出席いただきました。また、講演会終了後の懇親会では、タイの料理やビールを召し上がりながら会員の皆さまとの懇親を深められました。



▲左からゴープン・センマニー参事官、バンサーン・ブンナーク駐日タイ王国特命全権大使、原会長、ティラット・ソムバットシリ陸軍大佐



▲懇親会会場の様子



▲懇親会で挨拶をする山口顧問



▲記念事業の報告等が行われた総会の様子

当協会の設立20周年に向けて



会長
原 敏成

皆さんこんにちは。当協会は、埼玉県とタイ王国の友好関係の進展を図ることを目的として、平成11年3月16日に設立されました。今年で設立から19年目となり、来年は節目の20年を迎えます。

会員の皆さまのご協力のもと、数々の友好親善事業への協力、タイ北部地域の教育関連施設の建設、さらには人材育成支援など、民間ベースでの「草の根外交」に取り組んできました。

昨年度は、日タイ修好130周年記念事業として、ランブーン県のポメロップ幼小中学校の食堂建設、電気のない村の通学路への太陽電池式街灯設置、およびランブーン県の山岳民族職業訓練センターへの図書寄贈という3つの事業を行いました。

今年には記念事業の継続として、電気のない村の通学路へ太陽電池式街灯を設置する「埼玉・タイ 光リレー」事業のほか、当協会が来年に設立20周年を迎えることから、その節目となる記念事業として、新たに水道新設事業への支援を行うことを決定しました。このようなインフラ整備事業を通じ、子ども達が安全に学校へ通えるようになること、また生活用水が確保されることで衛生面や環境面が改善され、村の皆さまが豊かな生活を送ることができるようになることを切に願っております。

今後も支援のニーズ調査を実施しながら、当協会として何ができるか検討し、実行してまいりますと考えております。

最後に、皆さまの常日頃のご支援・ご協力に心より感謝申し上げますとともに、今後とも埼玉県とタイ王国の友好関係がますます進展しますよう、あらためてご支援、ご協力を賜りたく、よろしくお願ひ申し上げます。

バンサーン・ブンナーク駐日タイ王国特命全権大使ご講演
「タイにおける政治と経済の発展」 (抜粋)



▲講演するバンサーン・ブンナーク駐日タイ王国特命全権大使

本日は皆さまに再びお会いでき、大変うれしく思っております。埼玉・タイ王国友好協会の総会に出席させていただくのは今回で3回目となります。

まず、今年6月に起きた「大阪府北部地震」、また先週の水害により死者・行方不明者が多数いらつしやると伺っております。心よりお見舞い申し上げます。

また、昨年10月26日のプミポン前国王陛下の国葬では、天皇皇后両陛下は名代として秋篠宮ご夫妻が臨席されることをお許しくださり、タイ国民は大変感激いたしました。

さて、この一年を通して、東部経済回廊開発事業を含むタイと日本の政治・経済関係についてのどのような進展があったかお話しさせていただきます。

まず経済情勢ですが、タイの経済は継続的に成長しています。昨年の経済成長率3.9%に対し、今年の成長率は4.2・4.7%に伸び

ることが予想されています。成長の要因は、投資、観光、および輸出の成長です。

タイと日本の経済関係は、依然として親密な関係にあります。日本はタイにとって第一位の投資国です。2017年1月～12月の間、タイの投資委員会への投資申請案件は256件でした。総額は1,330億200万バツです。前年より148.14%増加しました。

貿易に関しては、日本はタイにとって中国に次いで第二位の貿易相手国です。2017年1月～12月の間、タイと日本の貿易総額は1兆8,522億3,600万バツです。前年同期より2.51%増加しました。

観光においても、日本はタイ人観光客の人気観光地の第一位であることになりました。2017年に日本を訪れたタイ人観光客は99万人、2016年より約9.5%増加しました。一方、タイを訪問した日本人観光客は150万人、2016年より7.2%増加しました。

政策面での一番大きな展開は、東部経済回廊特別法が5月15日に施行されたことです。これにより、投資家から事業継続への信頼が得られると考えています。東部経済回廊の現場開発については、近いうちに重要6案件

(6、080億バツ規模、約2兆800億円)について入札を行う予定です。その6案件は左記の通りです。

- (1) 三つの主要空港を結ぶ高速鉄道事業
- (2) ウタパオ空港と東部空港シティ(イースタン・エアポート・シティ)開発
- (3) ウタパオ空港の整備・改修・分解点検(MRO)センター
- (4) レムチャパン港第3期工事
- (5) マーブタープット工業港第3期工事
- (6) 東部経済回廊内のイノベーショナル区域(EECi)とデジタル・パーク・タイランド(EDC)

現在、海外の投資家はこの事業の可能性に信頼を示しています。2017年、タイ投資委員会への東部経済回廊内の投資奨励申請案件は96億USDに上り、2018年には100億USDを目標としています。

政治に関しては、このまま政治情勢が安定し、秩序を保つことができれば、政府は来年の4月までには総選挙を行う方針を固めました。

私はタイ政府が掲げている地方との交流政策を重視しています。この埼玉・タイ王国友好協会を含むタイと地方との友好協会は、タイ政府が掲げるこの交流政策を具体化するものです。双方の親密な関係を促進し、持続的に発展させる重要な駆動力となるでしょう。

第3期奨学支援資金授与報告

当協会では、2016年より高校生への奨学支援資金授与を行っており、今年で3期目を迎えます。第1期支援生徒3名、第2期支援生徒3名に加えて、今年も総会での承認を受け、第3期支援生徒として新たに2名が対象となり、計8名へ奨学支援資金を授与することになりました。

第3期支援生徒のシンブラパー・スンパドーンさん、ナリッサラー・チャッカラガートさんが通うバーン・パーラオ校では、小学1年生から生徒の受け入れを行っています。ランブーン県内から通う生徒のほか、チェンマイやチェンライ、バンコクなど遠方から親元を離れて寄宿し、学んでいる生徒もいます。シンブラパーさんとナリッサラーさんも高校では寄宿生活を送りながら、パーラオ校の先生らのような優しい教師になることを夢見て、家族の期待にこたえるため日々勉学に励んでいます。

2018年9月、当協会会員で現地滞在者である堀田様に、生徒が在籍する各校を訪問していただき、各校校長や職員らの立ち会いのもと、支援決定通知書および奨学支援資金を渡していただきました。堀田様からは、生徒の皆さんは自覚を持って一生懸命勉強しているとの報告があり、将来、タイ北部地域で教育者として立派に成長してくれることを期待しています。



▲シンブラパーさん(左)とナリッサラーさん(右)



▲(左から2番目より)シヤーさん、チュララットさん、チャニカンさん、ガンくん



▲ボンラダーさん(中央)



▲ナタウットくん(中央)

2018年 タイ王国への協力支援

インフラ整備事業

協会設立20周年記念事業

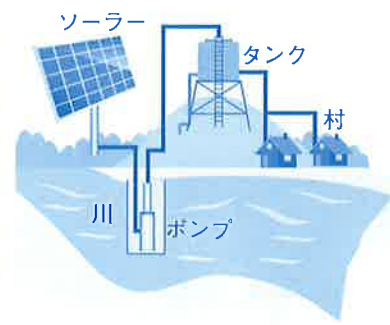
山岳地域での水道新設事業

当協会では、今年2月にタイへの親善訪問を実施しました。訪問先の一つであるランプーン県メーター郡ホワイ・ホーム村にて、当協会が寄贈した太陽電池式街灯を視察し、現地の村長と懇談を行った際に、逼迫した課題としてホワイ・ヒヤ村での水道新設事業の要請を受けました。

村長からの強い思いを受け、当協会では、今年度はランプーン県メーター郡ホワイ・ヒヤ村において水道新設事業を行うことを総会にて上程し、承認されました。また、来年3月に当協

会が設立20周年を迎えるにあたり、この水道新設事業を節目となる記念事業に位置付けることとしました。

ホワイ・ヒヤ村は山岳地区に位置する孤立した村で、電気が無く、水道設備も不十分なため、生活用水の確保が困難な状況となっていました。今回の水道新設事業は、山裾を流れる小川の川床に井戸を掘り、太陽電池の電力を利用して井戸から汲み上げた水を村の一番高い場所にあるタンクへ送水し、村の人々へ生活用水として供給します。事業の開始にあたり、201



▲水道新設事業イメージ図

8年9月11日(火)、ランプーン県メーター郡タメロップ地区行政役場にて調印式が行われました。当協会からは、現地でご協力いただいている会員の堀田様と、協力者のカムヌアンさんにご出席いただきました。ランプーン県からは地区行政役場長のタワッチャイ・クンルアング氏、県庁から派遣されている行政役

場長ミス ナタパット・パンプラサート氏のほか、ホワイ・ヒヤ村の村長や統括人の皆さまが出席されました。式では、調印式のお祝いと事業の無事を願う原会長の挨拶が堀田様により代読され、覚書の交換が行われました。この水道新設事業により、ホワイ・ヒヤ村の人々の生活が豊かになることを皆さん大変喜んでいました。

日タイ修好130周年記念継続事業

埼玉ータイ 光リレー

2017年より日タイ修好130周年記念事業として始動した『埼玉ータイ 光リレー』は、電気のない村の通学路へ太陽電池式街灯を寄贈する支援事業です。村から村へ光のバトンを繋げていきたいという思いから『光リレー』と名付けられたこの事業は、総会の承認を得ながら、現地調査をもとに、太陽電池式街灯が必要な村へ計画的に寄贈していく予定です。

記念すべき第1回目となった昨年は、ランプーン県メーター郡ホワイホーム村の通学路へ5基寄贈しました。第2回目となる今年と同郡のホワイホーム・ナイ村の通学路へ5基寄贈しました。現地会員の堀田様からは、生徒を送迎している父母や先生から大変感謝されているとの嬉しい報告がありました。



▲調印式参加者の皆さん



▲村長からホワイ・ヒヤ村での水道新設事業の要請を受ける原会長



▲井戸建設予定地を指し示す現地協力者のカムヌアンさん



▲役場長のタワッチャイ・クンルアング氏(中央)と現地会員の堀田様(右)による覚書の交換

▲ホワイホーム・ナイ村の太陽電池式街灯



▲ホワイホーム・ナイ村の太陽電池式街灯

「タイ・フェスティバル」



▲開会式にて挨拶を行うウラサック・ユースラット観光・スポーツ大臣

タイ王国大使館主催「タイ・フェスティバル 2018」が、今年も5月12日(土)、13日(日)の両日、東京・代々木公園イベント広場で開催されました。当協会の原会長も大使館より開会式へ招待を受

け、事務局員とともに出席しました。「タイ・フェスティバル」は平成12年に「タイ・フードフェスティバル」として開催され、今年で19回目を迎えます。今年は来場者が30万人を超え、タイ関連で日本国内最大級の食・文化イベントに成長しました。

今回も「New Shades of Thailand」のコンセプトのもと、タイ料理や文化を紹介したお馴染みの人気ブースに加え、タイの新たな側面に出会える様々なブースが設置されています。なかでも特別展示ブース「Thailand4.0 - the future is here」や、



▲会場の様子



▲握手をかわすバンサーン・ブンナーク駐日タイ王国特命全権大使(右)と原会長(左)

イノベーションおよび国内の連携推進の発展を目指したタイの成長モデルが紹介されており、タイという国が持つ可能性を大いに感じる事ができました。会場ではバンサーン・ブンナーク駐日タイ王国特命全権大使にあたたかく迎えられる、交流を深めました。

タイ王国旧お正月 水かけ祭りに参加



▲開会式にて挨拶する川合善明川越市長

平成30年4月22日(日)、名古屋市市民センターにて「タイ王国旧お正月 水かけ祭り」が開催されました。当

協会の原会長は水かけ祭り主催の埼玉在住タイ人クラブより開会式への招待を受け、出席しました。水かけ祭り(ソンクラーン)は、4月の旧正月に行われるタイを代表する伝統的なイベントです。この祭りでは人々は尊敬の意を込めて両親や祖父母の両手に水を注ぎ、また贈り物をするなどして敬意を示します。当日は民族舞踊やタイ・ミュージックが披露され、美味しいタイ料理も提供されるなど、大変盛り上がり、タイの文化を肌で感じる事ができました。



▲参加者から水を注がれる原会長



▲タイ民族舞踊の披露

ダルニー奨学金 本年度の授与者

本年度の新規授与者は、次の3名です(年間1人14,400円で3年間)。

ダルニー奨学金は、経済的貧困のため、教育の機会に恵まれないタイ・ラオス・ベトナムなどの子どもたちの中学生就学を支援する国際教育里親システムです。



パッティヤー・ヌアンパクデー 13歳



ティヤダー・ソムパオ 13歳



ノラカモン・スビウオン 13歳

街灯で光を灯す「埼玉ータイ光リレー」、当協会や現地の皆さんの思いが伝わってくるネーミングであり、すばらしい記念事業であると思います。

編集後記

電気の無い村へ訪問のため、改装した小型トラック「ソング」に初めて乗りました。途中、崖に隣接する未舗装の山道を快走したのは、少しの恐怖とともに快感でした。

埼玉・タイ王国友好協会ウェブサイト

<http://www.saitama-thai-fa.ecnet.jp/>

・会員増強にお役立て下さい

会 員 募 集

年会費 法人会員 2万円 問い合わせ TEL:049-247-5428
個人会員 2千円 FAX:049-246-2118

(武州ガス(株)内)